

学校の新しい生活様式における事務職員  
～コロナ禍での学校の経験を参考として～



熊本県公立学校事務職員協会

熊本東地区研究グループ



## 1. はじめに

新型コロナウイルス感染症が広がりつつあった令和2年（2020年）2月27日、当時の安倍首相は、全国の小中学校、高校、特別支援学校に対して令和2年（2020年）3月2日から臨時休校要請を行いました。

これを受けて、学校現場では、確かな指標が示されないまま極めて困難で苦しい対応を迫られ、子ども、保護者、学校職員は学校行事の相次ぐ中止・延期等で大変な不安を強いられました。

学校再開後は、検温・アルコール消毒・3つの密（密閉・密集・密接）を避ける、「人との間隔が十分とれない場合のマスク」・「手洗いなどの手指衛生」など基本的な感染対策を継続する「新しい生活様式」を導入するとともに、学校内で感染リスクを下げることに従事しながら学習環境を整え、児童・生徒に安心できる学校で学んでもらうために、今でも職員の連日の努力があると思います。

私たち事務職員も、新型コロナウイルス感染症が連日猛威を振るう中、感染症対策のアルコール等の物品調達など、児童・生徒が安心して学校生活を過ごしてもらえる環境づくりをそれぞれの勤務校で取り組み、継続して実施されているかと思えます。

熊本県では、令和3年（2021年）9月1日時点で新型コロナウイルス対策特別措置法に基づくまん延防止等重点措置が2度（延長含む）適用され、県民生活に様々な制約が求められています。学校現場でも分散登校やオンライン学習の推進など、これまでとは異なる学校生活が今後も待ち受けていることでしょう。

このような状況の下で、研究グループ内ではコロナ禍での経験について、学校でどのようなコロナ対策を実施し、コロナ禍での悩みなどのアンケートを取りましたので、取り組みについての現状報告をいたします。

## 2. マニュアルから学ぶ、経験から学ぶ

文部科学省は令和2年（2020年）5月22日、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校における新しい生活様式』～」（以下、「衛生管理マニュアル」と略す）を公表し、教育委員会や学校での感染防止対策を進める上で、必要な情報の提供を行いました。

令和3年（2021年）4月28日には、そのバージョン6が出され、「新しい生活様式」を踏まえて、感染のレベルごとに身体的距離の確保や感染リスクの高い教科活動・部活動実施の是非などの基準を示し、さらに清掃・消毒、3密の避け方、冬季の感染症対策なども、さまざまな生活場面や個々の学習活動の特徴に合わせてアドバイスしています。

これから各学校が確実な感染防止対策を進めるには、これまでの学校で進めてきた感染防止活動の経験とその教訓に学ぶとともに「衛生管理マニュアル」等の指導文書を指針として、それぞれの地域の状況と子どもたちの学校生活の様子に合わせた計画を立て、実行することが大切になってくるでしょう。

では、そもそも「新しい生活様式」や「学校における新しい生活様式」とは、どういったことかを探ってみましょう。

## 「新しい生活様式」の実践例

### (1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
  - 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
  - 外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。
  - 家に帰ったらまず手や顔を洗う。  
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
  - 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

### 移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

### (2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに手洗い・手指消毒  咳エチケットの徹底
- こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に）  身体的距離の確保
- 「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



### (3) 日常生活の各場面別の生活様式

#### 買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

#### 公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

#### 娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは、十分に人との間隔を  
もしくは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

#### 食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

#### イベント等への参加

- 接触確認アプリの活用を
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

### (4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務  時差通勤でゆったりと  オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン  対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成

(参考) 新型コロナウイルス感染症対策専門家会議

「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」（令和2年5月4日・6月19日改定）

から抜粋

「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準

地域の感染レベル	身体的距離の確保	感染リスクの高い教科活動		部活動 (自由意思の活動)
レベル3	できるだけ2m程度 (最低1m)	行わない		個人や少人数での感染リスクの低い活動で短時間での活動に限定
レベル2	1mを目安に学級内で最大限の間隔を取ること	収束局面	拡大局面	感染リスクの低い活動から徐々に実施し、教師等が活動状況の確認を徹底
		感染リスクの低い活動から徐々に実施	感染リスクの高い活動を停止	
レベル1	1mを目安に学級内で最大限の間隔を取ること	適切な感染症対策を行った上で実施		十分な感染対策を行った上で実施

(参考)

本マニュアル	新型コロナウイルス感染症分科会提言(※)における分類		
レベル3	ステージⅣ	爆発的な感染拡大及び深刻な医療提供体制の機能不全を避けるための対応が必要な段階	(病院間クラスター連鎖などの大規模かつ深刻なクラスター連鎖が派生し、 <b>爆発的な感染拡大</b> により、高齢者や高リスク者が大量に感染し、多くの重症者及び死亡者が発生し始め、 <b>公衆衛生体制及び医療提供体制が機能不全に陥ることを避けるための対応が必要な状況。</b> )
	ステージⅢ	感染者の急増及び医療提供体制における大きな支障の発生を避けるための対応が必要な段階	(ステージⅡと比べてクラスターが広範囲に多発する等、 <b>感染者が急増し、新型コロナウイルス感染症に対する医療提供体制への負荷がさらに高まり、一般医療にも大きな支障が発生することを避けるための対応が必要な状況。</b> )
レベル2	ステージⅡ	感染者の漸増及び医療提供体制への負荷が蓄積する段階	(3密環境などリスクの高い場所でクラスターが度々発生することで、 <b>感染者が漸増し、重症者が徐々に増加してくる</b> 。このため、保健所などの <b>公衆衛生体制の負荷も増大するとともに</b> 、新型コロナウイルス感染症に対する医療以外の一般医療も並行して実施する中で、 <b>医療体制への負荷が蓄積しつつある。</b> )
レベル1	ステージⅠ	感染者の散発的発生及び医療提供体制に特段の支障がない段階	

※「今後想定される感染状況と対策について」(令和2年8月7日新型コロナウイルス感染症分科会提言)

★学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～(2021.4.28 Ver.6) 文部科学省作成より抜粋

## 学校の新しい生活様式・コロナ感染症対策に関するアンケート

熊本東地区では、これまでのコロナ禍での学校での経験やどのような対策をされたかなどを探るため、自由記述のアンケートを実施し、回答してもらいました。

### Q1.新型コロナウイルス感染症関連の対応・対策で困っている事や困っていた事があれば教えてください。

#### 換気の問題点

- エアコンをつけながら換気をしているが、外から害虫が室内に入り込むため、衛生面で問題がある。
- 教室等の換気による空調設定温度の個別対応。
- 換気のため窓を開けるので、冷房代や暖房代が増加すること。

#### コロナ対策用品の調達・管理

- 去年は、手袋・マスク・サーキュレーター等の品不足や値上がりで感染症対策の物品が確保できるか心配だった。
- 必要な物品が中国製部品のため、中国から調達できず、機器本体が作れず商品がない、ということがあった。また、在庫切れで購入できないことがあった。
- 在庫がなくなる恐れがあるため、スピード感をもって事務処理（物品選定、購入伺い作成等）を行う必要があった。
- 校内の感染予防対策として、非接触型体温計、アクリル板などさまざまな用品があるが、公費の支出の適正さも考慮する必要であるため、「どのような場面で、どう使っていくか」「代替品はないか」などを教員と考えながら購入をしていた。
- 昨年5月にコロナ禍の中、必要な大きな会議があり、感染防止対策として、アルコール消毒液を購入する必要があった。しかし、一般の人でもアルコール消毒液やマスクを容易に手に入れることが難しく、業者からの供給が少ない状況だったため、ホームセンター等を巡り、かき集めて消毒液を購入した。今では、アルコール消毒液やマスクが流通しているが、当時は、在庫の確保が難しく困っていた。
- 何をどの程度まで購入すれば良いのか分からない。
- 消毒用アルコール等の情報が錯綜して、どれを選ぶか迷った。
- 一気に購入する物品が増え、その管理に気を遣うことになった。細かく工夫しながら使用状況を把握しておく必要があることに苦慮している。
- 県からのコロナ交付金の令達があるが、購入したいコロナ対策の物品を申請しても受け付けてもらえなかったことがあった。（国の購入基準があるのかもしれないが、購入計画の見込が難しかった。）

#### 予算計画・執行上の問題

- 予算の使い途をどうするか。行事や作業も例年通りではないので、効率的な予算執行ができない。
- コロナ禍により、本校で検討している事業ができていない。

### オンライン環境や在宅勤務

- ズーム会議などが増えてきたため、それに伴う物品購入をする時の在庫不足で納期末定の場合、納期をどのくらいに設定するのが難しい。(ICT 機器)
- 学校休業中は在宅勤務が推進されたが、事務職員は在宅勤務で処理できる業務が少なく、出勤することがほとんどであった。
- 学校休業中の2020年4月中旬から5月中旬まで事務職員は半日単位で在宅勤務を命じられたが、在宅では県のシステムへアクセスできないため、できることは限られており、自宅ですることがない時は年休を取得した。結局、出勤したときの業務量が増え、平日午後勤務の場合は遅くまで勤務したり、休日に対応したりしていた。
- 生徒1人1台タブレットPC対応について、調達台数が多く苦慮している。本校では、今年度202台発注しているが、確実な納入の見通しが立っていない状況である。

### 研修等の延期・中止

- 事務職員の研修など、集まりが制限され、研鑽や情報共有ができず、資質向上の場が少ないことに困った。
- 県で行われる研修会や説明会が中止・延期になったことにより、初めての業務に戸惑いが多かった。共用キャビネットにある資料等を参考にして業務を行うが、資料が膨大な時は、ポイントがわからず、通常より時間を要して業務を行った。
- 例年開催されていた県主催の説明会が中止となり、新採や初めて担当する業務を行う事務職員は、戸惑いながら事務の仕事をしていた。

### その他

- サービスの定義がわかりづらい。(特休又は病休や、特休又は職専免など、どちらにすればいいかわからないことがある)
- 就学支援金の説明会が開けず、詳細な説明ができなかった。
- マスクが必須になったことにより、聴覚に障がいや有している職員が、相手の顔全体の表情や口元が読み取れず、話している内容を把握することが更に難しくなった。
- 分散授業を実施するため、教室として使用していなかった部屋を教室として使用する場合の照度の確保することが難しかった。

## Q2.今後の検討課題となっていることがあれば教えてください。

### 換気による問題

- 各部屋で換気をするので、空調費用が高額になり、今後の電気代が不安。

### オンライン環境や在宅勤務について

- 生徒用職員用のタブレットの導入により、タブレットの保管の仕方や管理が課題になる。
- 1人1台学習用端末の導入による関係備品の管理方法。
- 学校の情報機器の整備に追いついていない。急遽ICT環境を整えることになったため、職員が情報機器を適切に使用できるか不安。
- 在宅勤務をする場合、自宅でも県のシステムが利用可能になるように制度面や環境面を整備する必要がある。

- 校内全館でタブレット PC が使用できる環境を整えるための経費の確保。
- 普通教室及び2つの特別教室に県から ICT 教育のために WiFi 設置が行われたが、職員室に WiFi がないため、授業の事前準備を ICT で行う際は、WiFi 環境が職員室にないため、普通教室等で行う必要があり、大変不便との意見がある。

#### 消毒・感染症対策について

- 学校で感染者（職員・生徒）が出た場合の対応。

#### その他

- 会議・研修等の出張が減ったことにより、インク代、マスター代、コピー代、電話代等がかさんでいる。
- ガラス破損や校内の設備の破損が異常に多くなったため、例年より修繕に伴う予算執行が増加した。コロナ禍に伴う生徒の精神的な面で影響があるような気がするため、生徒指導の教諭等との情報提供を積極的に行う必要があると感じる。

### Q3.他校ではどのような対策を講じているのか、気になることがあったら教

えてください。

#### 消毒・感染症対策について

- コロナ感染者の職員・生徒がでた場合、業者に消毒を委託した学校はあったか？本校は、今まで数名感染者が出ましたが、業者に依頼する程の事例はなかったため、事例があれば教えてほしい。
- 実際に感染者が出た場合の対応を教えてください。
- 保護者や来客の際に、どの程度消毒等を徹底しているか。
- 教室で飛沫防止のパーテーションを使用しているか。具体的にどのような仕様のものを使っているか。
- 人数の多い職員室にはパーテーション等の対策をしているか？
- 職員室での3密対策はどうしているか。
- 感染症対策としてどのような物品を揃えているか。
- コロナ対策として、購入して良かったものを教えてください。また、活用方法も知りたい。

#### 在宅勤務について

- 事務室は分散またはテレワークを行っているか。（もしくは、過去にテレワークを実施していたか。）
- コロナ禍により、今までの業務のうちオンラインに切り替えたものがあるか。また、それはどのような体制で行いますか（行ったか。）

## Q4.コロナ禍によって、事務的な業務であらためて気づかされたことはあり

ますか？

### 働き方の見直しについて

- 学校行事の再検討。全てをコロナ前に戻さなくてもいいのではないか。これを機に真剣に働き方改革に沿った学校の変化が必要だと思う。
- リモートワークやリモート会議を行う環境設定をすれば、業務負担軽減につながり、学校現場の課題となっている働き方改革につながると思った。
- 出張取り止めなどによって、メールで済む業務が多くあることがわかった。これまで必要ない旅費を支給していたかと思った。
- 出張がなくなったことで、事務業務に集中して取り組むことができ、期限に余裕をもって回答することができた。
- IT環境が整い、職員も徐々に慣れ、適応できるようになれば、業務もスムーズに進むと思われる。
- オンラインで保護者や職員とやりとりができれば負担が軽減される。

### 在宅勤務について

- 在宅勤務できる環境が整っていない。在宅勤務することで、実際できる業務に限りがある。
- 事務の業務は個人情報を取り扱うことが多いため、パソコンを持ち帰って家で仕事をするのは難しい。ほとんどの業務は学校でないとできない。家ではネットを繋げないため、財務にも入れず、もし資料を持ち帰って仕事をするとしても選定が難しい。
- 制度面や環境面が整備されたとしても個人情報を含んでいる業務があるため、完全に在宅勤務が可能な職種ではないことがわかった。
- テレビ会議及び書面での会議、研修会の実施により時間的制約、旅費等の事務処理、及び経費の削減に効果があると思われる。今回に似たような社会状況下では、在宅勤務普及もOKではないだろうか？

### 物品調達について

- 物品の調達に関しては、情報収集をして、先の状況を予測して、少しでも早く行動することが大事であると感じた。
- 早めに業者への確認や事務手続きをしないと納品までに時間がかかることがあるので、早めに準備することが大事だと感じています。

### その他

- トイレの手洗いの蛇口や小便器洗浄をセンサーで自動化することで感染症対策になるし、衛生面の向上を図ることができる。このコロナ禍の機会に老朽化した学校は、抜本的な施設の改革が求められるのかもしれない。
- 事務職員の仕事とは、子どもたちの教育環境整備のためにハード・ソフトの両面から尽くすことであること。
- 生徒がコロナ罹患してしまうと事務室への就学支援金等の提出物も遅れてしまうので、担任の先生と調整し、スムーズな対応ができるようにする必要性を感じた。

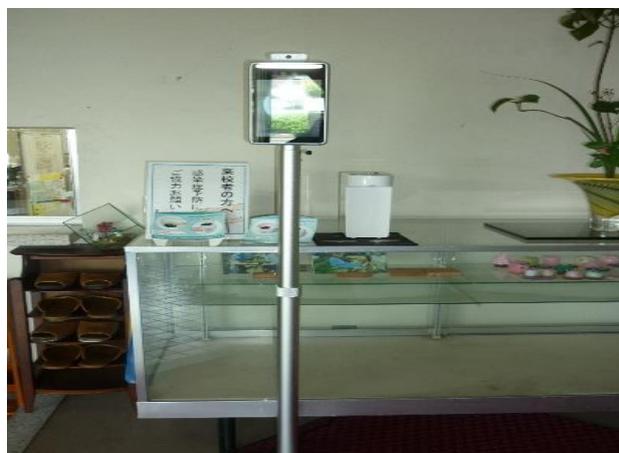
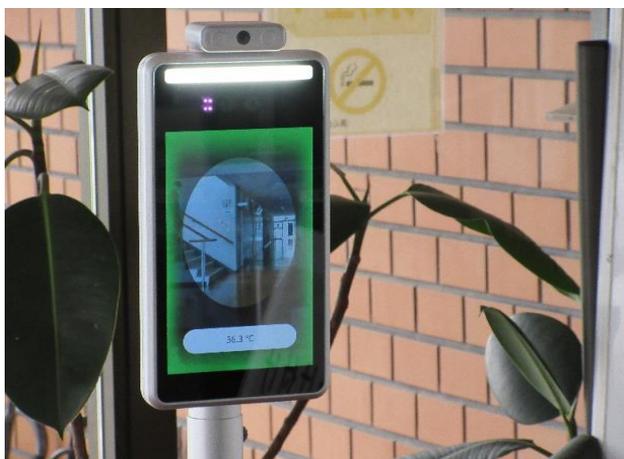
- コロナ禍の中でも、教育の質を確保し、カリキュラムを確実に実施するために、今現場で何を必要としているか、現場を知ることが重要であること。
- そのための事務的な業務を着実に遂行するために必要な能力の向上が大切であること。
- ・効率的かつ効果的にリソース（ヒト・モノ・カネ・情報など）配分を行うための事務職員のリソースマネジメント能力
- ・現場の声を整理して迅速に対応するコミュニケーション能力
- ・ICT環境を整備するための基礎的な知識 ⇒ 資質向上のための自己研鑽
- ・学習指導要領や年間指導計画の概要についての知識 ⇒ 教員から要望のあった教材等の査定時等に役立つ

## Q5.貴校独自に工夫していることがあれば教えてください。

- 特別支援学校のため、換気のためのサーキュレーター（扇風機）は、児童・生徒の手の届かない壁掛け式にしている。
- AI モニターを2台購入し、1台は来客時の検温を行う際に活用し、もう1台は生徒の検温に活用している。非接触での検温ができ、来客対応・保健室での生徒対応がスムーズになった。
- 聴覚に障がいを持っている職員の対応として、事務室朝会での個々の発言内容を聞こえる職員がGoogle Chatへ入力している。また、校内や管理職の動向、事務室内の出張や年休については、事務室内にあるホワイトボードやカレンダーを活用している。
- 来客対応について、感染のレベルによっては管理棟1階のみでの対応にしている。
- 一時的に、事務室を2箇所に分けて業務を行った。
- オートディスペンサーを購入し、生徒・職員の手洗い励行につなげられた。
- 透明マスクを全教職員に配布した。
- パーテーションを職員室と事務室の机前面に設置。
- ビニールカーテンを図書館カウンターと事務室窓口に設置。
- 来校者に検温・健康カード記入を依頼。
- 受付のカウンターに、飛沫防止の透明シートを設置。また、事務室内の机にそれぞれパーテーションを設置し、感染防止対策を実施している。
- 就学支援金書類持参の際、受付前に多くの人だかりになるため、できるだけ2m間隔で並んでもらった。また、受付場所近辺に、人と人の距離をとるようポスターを掲示した。
- 新入学生の説明会が実施された際は、就学支援金の説明を放送で行った。

### 3. コロナウイルス感染症対策グッズや工夫していることの紹介

①非接触検温検知器



②非接触型温度計・消毒機



③体温測定器



④来客用名札のコロナ対策【手作り製】



⑤ペダル式ゴミ箱



⑥換気対策用サーキュレーター



⑦-1 飛沫防止用パーティション



⑦-2 飛沫防止パーティション【手作り製】



## 4. まとめ

コロナ禍の中の感染症対策として、会議のオンラインによるリモート化などに伴い、全職員が情報機器の活用について意識改革をしていくことになるかと思えます。

また、学校それぞれの事情があり、状況も異なりますが、国や県から令達・支給された予算等をコロナ対策に有効に活用するために、学校間で情報共有できれば、多くの学校で効率的な予算執行と感染症対策ができると思います。

そのような中で、私たち事務職員にできることは何か、事務職員だからこそできることは何かに気づき・考え・自ら率先して迅速に行動していくことが必要だと改めて感じました。

特に学校現場については、マスコミ報道等でもクローズアップされる機会も多く、児童・生徒が安心・安全な学校生活を過ごすための学校の役割について、今後も注目されることでしょう。本県でも学校での対策として地域ごとに分散登校やオンライン学習の取り組み等の対策を講じています。学校内での感染拡大を防ぐためにも、正しい感染症対策を管理職はじめ全職員の理解と協力、学校間や教育委員会・関係者との連携が重要です。

そして、コロナ禍によって、従来の学校形式がすべてではなく、いままで見ていなかった新しい形式の学校の可能性を感じた方も多くいらっしゃるでしょう。今回の発表が少しでもみなさまの今後の業務の糧になれば幸いです。

最後になりましたが、貴重な情報をいただきました関係各位には心より感謝申し上げます。

### 熊本東地区研究グループ

(発表者)

熊本県立湧心館高等学校 主任事務職員 新田 智大

(アンケート等、ご協力いただいた方々)

熊本県立熊本支援学校 事務主査 藤本 美鈴

熊本県立熊本豊学校 事務主査 山下真貴子

熊本県立盲学校 事務主査 小森田和子

熊本県立東稜高等学校 事務主査 西 陽子

熊本県立熊本はばたき高等支援学校

主任事務職員 高崎 薫

熊本県立第二高等学校 事務職員 今村 春菜

熊本県立熊本商業高等学校 事務職員 福山こころ

熊本県立盲学校 事務職員 山崎 藍